24

二代宮川香山
《青磁鳳凰耳花瓶》 一点

昭和三年（一九二八）
陶磁
高七〇・五　径四〇・五

明治期の内外の博覧会で受賞を重ね帝室技芸員となった初代宮川香山の後を継いだ、二代宮川香山（一八五九～一九四〇）による大型の青磁花瓶。二代香山は大正六年（一九一七）に二代を襲名後、仁清や乾山の京焼の色絵陶器の伝統を継承する一方、中国の宋、元、明の青磁や青花を意識した作風を展開していた。昭和二年（一九二七）には東陶会を結成、板谷波山らとともに顧問をつとめ、関東大震災後の東京を中心とした陶芸界の復興にも寄与した。

本作品は昭和三年の大礼奉祝品として横浜市より献上されたもので、南宋の龍泉窯を想起させる淡い色合いの青磁である。ただし、器形は龍泉窯のものとは異なり、大きく端反りのある口、太い首、張り出した胴、底部へとやや広がる裾からなり、特徴的な装飾として鳳凰を立体的に彫刻した耳と、その尾羽の部分に掛ける遊環がつく。二代香山はこの前後に本作品に類する大型青磁花瓶を製作しており、大正十一年に来日した英国皇太子へ東京市より贈呈された《青磁鳳凰耳花瓶》、昭和三年製作の《青磁釉紅象嵌鳳凰遊環花瓶》（横浜市蔵）などがある。大礼に際しては、香淳皇后から昭和天皇へ贈られた《青磁青華唐獅子文花瓶》（当館蔵）も製作している。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大礼 ― 慶祝のかたち
三の丸尚蔵館展覧会図録No.85

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　公益財団法人　菊葉文化協会
令和元年九月二十一日発行
©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan